

【別紙 3】

すみだ五彩の芸術祭 自主企画一覧について

1 自主企画の検討状況

すみだ五彩の芸術祭における自主企画は、いずれの企画も地域との協働や交流を重視し、人々の日常と文化芸術との接点を生み出すことを目的として検討を進めている。主に以下の種類の企画を展開予定である。

(1) 展示

絵画、写真、インスタレーション、メディアアート、パブリックアート等、視覚芸術を中心とする展示型の企画。地域リサーチや歴史的空間の活用を通じて、すみだの記憶や資源を新たな視点で提示する。

(2) パフォーミングアーツ

演劇、ダンス、音楽、回遊型パフォーマンスなど、身体や時間を用いる舞台芸術。劇場空間やまちなかを舞台に、歴史や地域文化を現代的に再解釈する作品を展開する。

(3) ラーニング

トーク、ワークショップ、対話型プログラム等、学びや参加を軸とする企画。福祉や多文化共生、地域活動との連携を通じて、芸術祭を一過性の催しにとどめず、継続的な関係づくりへとつなげる。

2 自主企画一覧

(1) 解放されたプロメテウス (AR 作品) + 小泉明郎展

【アーティスト：小泉明郎】

日本で働く外国人の体験を題材にした AR 作品と立体作品を展示する。他者の内面を想像する体験を通じ、共生社会のあり方について来場者に問いを投げかける。



(2) 色を纏う、共に縫う

【アーティスト：Tomo Koizumi (小泉智貴)】

墨田の人々と共に縫う参加型プロジェクトと既存作品の展示を行う。繊維産業の歴史を背景に、老若男女が一つの作品をつくり上げる過程を通して、共につくる喜びや現代の幸福のかたちを共有する。



(3) 古からの美しき佇まいへ、今日の感性と

【アーティスト：山口藍、宮永愛子、風間サチコ】

歴史的建造物に古美術と現代作品を共置し、日本の美の継承と更新を試みる。建築空間の魅力を際立たせ、現代の生活や感性との新たな接続を生み出す。



(4) 写真展示企画：すみだのひとびと

【アーティスト：蔵真墨】

墨田で暮らす人々を撮影し、地域の集会所など、身近な場所で展示する。
写真と短いテキストを組み合わせ、地域ごとの空気や人の魅力を感じ取れる鑑賞体験を提供する。



(5) 本所七不思議をテーマにした「パラレルワールド」

【アーティスト：岡田裕子】

本所七不思議を現代的な視点で再構築する周遊型企画。音声を聞きながら街を歩き、現実とフィクションが交錯する感覚を体験し、日常の風景を新たな物語として捉え直す。



(6) Dance in SUMIDA

【アーティスト：山崎広太】

能や歌舞伎の「隅田川物」を着想源に、新作ダンス作品を制作・上演する。地域リサーチや人々との交流を重ね、劇場などでサイト・スペシフィックな公演を展開する。



(7) 扉座「歓喜の歌」すみだバージョン

【アーティスト：劇団「扉座」】

落語「歓喜の歌」を墨田版として舞台化し、区民参加型で上演する。
商店街との連携も視野に入れ、下町の人情味と演劇の魅力が響き合う作品として発信する。



(8) 謎音研究所×向島～鐘ヶ淵

【アーティスト：謎音研究所】

音声ガイドを手がかりに、夕暮れの向島から鐘ヶ淵までを巡る没入型ツアーパフォーマンス。土地の記憶と物語を重ね、歩くことで体験する新しい演劇表現を提示する。



(9) 日常に寄り添うアート×北斎プロジェクト

【アーティスト：5名程度を想定】

障がいのある人々の表現活動を紹介し、制作することの意味を本人や周囲の言葉から丁寧に伝える。作品展示に加え、テキストや映像を用い、多様な創造のあり方を重層的に可視化する。



(10) 東墨田に咲く花

【アーティスト：弓指寛治、梅田哲也】

東墨田・八広エリアの皮革産業の歴史や地域の記憶に着目し、アーティストがリサーチを重ねながら作品を制作・展開する。作品等を通じて、地域の歩みを見つめ直し、未来へとつなぐ機会を創出する。



(11) 食いっぱぐれない街をつくろう！

【アーティスト：福田恵、Dorita Takido、xlab ほか】

「誰も食いっぱぐれない街・墨田」をテーマに、食やエネルギー、多文化共生を切り口とした展示を展開する。テクノロジーとアートを用い、支え合いのあり方や地域で暮らすことの意味を体感的に考える場をつくる。



(12) 人と社会の交響曲

【アーティスト：シェインシャビロ、岸野雄一、今井紀明ほか】

音楽都市・墨田の歴史を背景に、トークやレクチャー、パフォーマンスを組み合わせたプログラムを実施する。文化芸術を核に多様な分野の実践者が交わり、人と社会をつなぐ新たな都市の姿を多角的に探る。



(13) ハイドロブラスト「演技とケア」

【アーティスト：ハイドロブラスト】

高齢者福祉施設に滞在し、演技とケアの共通点を探る演劇プロジェクト。公演に加え、地域のケア実践者との対話の場を設け、他者を想像し関わることの意味を地域とともに考える。



(14) 鈴木康広×すみだのみかた

【アーティスト：鈴木康広】

東武鉄道や鉄道文化を手がかりに、まちの中の小さな発見を促すワークショップと展示を行う。来場者の記憶や体験を重ねながら、墨田の魅力を新たな視点で捉え直す体験を生み出す。



(15) ものづくり×パブリックアート

【アーティスト：高須賀昌志】

墨田の素材やものづくりの技術と協働し、公共空間に立体作品を制作・展示する。作品を区内各所で巡回させることで、ものづくりの街・墨田の魅力を広く発信し、地域産業への新たな刺激とする。



(16) 沢村澄子による書道作品

【アーティスト：沢村澄子】

歴史的建造物の空間において書道作品を公開し、墨による表現の奥行きと迫力を伝える。あわせて「墨に五彩あり」という芸術祭の理念を象徴する作品を展示する。



○ ソーシャルワーク・アートアクション

福祉・アート・まちづくりが交差する場をつくり、地域共生社会の可能性を探るプロジェクト。分野を越えた対話と学び合いを通じ、文化としてのソーシャルワークを地域に位置づけていく。

(17) 川田知志による絵画

【アーティスト：川田知志】

土地のリサーチをもとに絵画作品を制作し、墨田を流れる川や地形と人々の暮らしの関係に着目する。区内各所への展示を通じて、地域理解を深めるとともに回遊性の向上を図る。



(18) 野ざらしによるプロジェクト

【アーティスト：野ざらし(佐藤研吾、中島晴矢、青木彬)】

まち歩きと観察を通じて、地域の風景や人々の営みを記録する参加型プロジェクト。写真やスケッチ、言葉など多様な方法で痕跡を残し、地域を再発見するプロセスそのものを共有する。



(19) なんでそんなんプロジェクト

【アーティスト：ぬか+滝沢達史(なんでそんなんプロジェクト)】

日常で起こる理解しにくい言動を否定せず、「わからなさ」を楽しむ参加型企画。出来事の発見や共有を通じて、固定化した価値観をほぐし、他者へのまなざしを育む地域づくりを目指す。



(20) さとうりさによる作品

【アーティスト：さとうりさ】

子どもや保護者と共に「安心できる場所」をテーマに作品制作やワークショップを行う。制作体験を通じて、自分にとっての居場所を見つめ直し、地域や人とのつながりに気づく機会を生み出す。



企画のタイトルや内容等については、今後変更の可能性がります。